

嘉治佐保子 教授

専門：国際マクロ経済学（インタビュアー：小原・馬場）

『日本と欧州の経済を比較する！』

Q. 嘉治先生の専門とされている研究内容はなんですか？

米国に比べ、欧州の経済社会は日本の経済社会に近い面があります。欧州で起きていることを研究し、時には一種の反面教師として分析して日本の参考にすることが私の研究の目的です。逆に欧州の人たちに日本で起きていることを説明することも私の仕事の一つです。（実際に日本と欧州はどのように類似しているのでしょうか？）。欧州と日本の共通点の例を挙げると、高齢化による社会保障・財政赤字のサステナビリティ、そして環境面のサステナビリティもあります。これはすべての先進国に共通する問題ですが、米国の場合はいろんな意味でフレキシブルで急激な変化を国民が受け入れる準備があるのに対し、日本や欧州ではあまり急激な変化を好まないという点が類似していますね。

『学生と共に作っていく双方向授業を重視！』

Q. 嘉治先生の教育理念を教えてください

スプーンフィーディングという表現があるのですが、スプーンフィーディングにならないような教育を心がけています。つまりこちらから一方的に与えるだけの授業ではなく双方向授業を重視しています。学生たちが自分で考えてこちらに情報を求めてくるようなきっかけを作る、こちらから情報を一方的に与えるのではなく学生がどの情報が自分に必要なのに気付いて積極的に求めてくるような授業を心がけています。（ゼミを全部英語で行うのは？）。ゼミをすべて英語で行っているのも学生が話し合っただけのことです。今の世の中では英語でコミュニケーションを取れば仕事の選択肢が大きく広がるわけですが、そこに学生たちが気づき自ら考えて決めた結果ですね。学生たちが決めたことなので私も勿論、積極的に推進したいと考えます。ただ英語だけで中身が伴わなければ意味がないので、双方向授業が大事だと考えています。

『常に自分の頭を使う習慣を身に付けてほしい』

Q 嘉治ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

常に自分の頭を使う習慣を身に付けてほしい。でも「頭を使えと言われてもどうしたらいいかわからない」という人もいます。そういう人はとにかくたくさんさんの情報を頭に取り込むことが大事だと思います。例えば胃袋もたくさん食べ物を取り込むと一生懸命消化するじゃないですか、それと同じで脳もたくさんさんの情報が入ってくると一生懸命整理しようとするのです。だから最初は手当たり次第でもよいからたくさん読んで貪欲に情報を頭に詰め込む、そうすると頭の中にフォルダーのようなものがいくつも出来てきます。フォルダーが出来たら、頭に新しい情報が入るたびに、その情報をしかるべきフォルダーに入れていくのです。自分の頭の中のフォルダーのセットはその人固有のもので、そうするとフォルダーが出来ればその人独自の分析ができるようになってきます。まずはとにかく多くの情報を取り込んでフォルダーのセットを作ることが重要です。

『今の時間を大切に使うべき！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

人と違うということを恐れなくて欲しい。これからの世の中では違えば違うほどいい。人と違うことを恐れずに自分のやりたいことをやってほしいです。今の時間を大切に使ってください！大学時代というのは、社会に出たら二度と来ないと言えるほど、自由な時間が多い時期です。今貪欲に自分の脳を鍛えれば後が楽になるはずですよ。